
建国記念日=日本おめでとう！

黒蜜柑@暇人オワタ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

建国記念日＝日本おめでとう！

【Nコード】

N8461Q

【作者名】

黒蜜柑@暇人オワタ

【あらすじ】

2月11日は日本の誕生日！

(前書き)

長いです。

初投稿なのでいろいろと下手です。

亜細亜組

今日は日本の誕生日。亜細亜組でどうするか話し合っているところだった。

韓「今日は日本の誕生日なんだぜ！だからなんかやるんだぜ！」

中「『なんか』って何あるか？」

韓「なんか他の国とか集めてサプライズみたいなのをやるんだぜ！」
香「他の国って何処的な」

韓「イギリス、アメリカ、ロシア（仮）、フランス（仮）、ドイツ、イタリア、スイス、ギリシャ、トルコ、セーシェルあたりがいいと思うんだぜ！」

中「他はともかく、あへん野郎やロシア、フランスまであるか？！絶対いやある！」

中国が全力で否定してきた。

韓「あくまでもロシアとフランスは仮です！イギリスは日本と仲良さそうだから一応！」

イギリスと日本は、まあ、結構仲がいいのだ。

台「日本さんは、ロシアアレルギー気味だから、ロシアは呼ばない方がいいんじゃない？」

今まで黙っていた、というか作者に忘れられていた台湾が口をはさんだ。

香「じゃあロシアは呼ばないのな。」

韓「じゃ、ロシアは呼ばないっておkなんだぜ！」

亜細亜組では勝手にこんなことが進められていった。

中「ていうか、何処でやるあるか？そもそも、勝手にきめていいあるか？」

中国がもつともそんな意見を述べたが、誰も聞いていなかった。

ヨーロッパ組&その他

英「 今日、何の日か知ってるか？」

米「なんだい、イギリス。結婚記念日の時の嫁みたいない方して。」

英「誰が結婚記念日だ！今日は日本の誕生日だ！」

伊「あー！ツ！本当だ！イギリス、よく知ってたねー！」

英「ぐ、偶然聞いただけだ！」

ツンデレ眉毛発d（英「誰がツンデレ眉毛だ！！！」）

独「そういえば、そうだったな…祝ってやりたいのか？イギリス（黒笑）」

英「べ、別にそういうわけじゃあ」

米「じゃ、イギリス抜きでやろう！日本の誕生日パーティー！」

英「なッ！」

伊「じゃあどうするー？亜細亜組も呼ぼうよー！」

英「あーッ、もう！仕方ないなあ！俺も祝ってやるよ！」

米「何が仕方ないんだい？」

仏「えーっ？何？日本の誕生日パーティー？！お兄さんも行くよ

！
フランスが割り込んできた。
独「だが断る。」

ドイツが丁重（？）に断ったが、

仏「え？え？なんで？」

独「お前がいると悪い予感しかしない（酔って全裸になったり脱がせようとして襲ったり）。」

英「というわけで 帰れ！この変態が！エイプリルフールの時に日本も脱がせたたる（御本家様）！」

仏「ええ ……」

フランス強制帰還。

伊「まあ、ロシアも呼ばないでおこうよ。」

独「そうだな。ロシアアレルギーだしな。」

露「ん？僕がどうかしたかな？」

伊「ひいっ！」

米「あー、今、今日日本の誕生日（英「いやっ！なんでもない！なんでもないから！」）

露「明らかに何かあるよね。どうでもいいけど。」

あ、そつえば、日本君といえは ……」

英「な、何かあったか？」

あッ！」

露「？」

「兄さん…結婚しましょう…兄さん…」

そこには、ベラルーシがいた。

露「べ、ベラルーシ?!」

ベラルーシ「兄さん…そんなことより結婚しましょう…結婚けっこ

そこに、また電話がかかってきた。

米「今度こそ架空請求業者じゃありませんように……」

アメリカが受話器を手に取った。

中「あ、美国あるか？我ある。中国あるよー。」

米「ああ、中国かい？良かった。」

アメリカが安堵のため息を吐いた。

米「えー、と。なんだい？丁度俺からも話したいことがあったんだ。それで用というのは、今日、日本の誕生日だろう？だから、亜細亜組も日本の誕生日パーティーでもやらないかい？」

中国「おお、我も同じ用件ある。じゃあ決まりあるな。何処でやるあるか？」

米「日本の家でいいんじゃないかい？こっそり侵入して。」

中国「不法侵入あるか……。まあ、日本の家でいいあるな。じゃあ今すぐ日本の家に向かうよろし。」

我たちは先にいつてるある。」
そう言つて中国は電話を切った。

米「中国からだつたよ。彼も誕生日パーティー誘いに来たところだつたつて。」

英「ああ、聞こえてたぞ。日本の家でいいんだな？」

米「ああ。中国たちもう向つてるつて。俺たちももういくんだぞ！」

英「なんか持つて行った方がいいよな……」

米「じゃあ、俺がケーキを作つていくんだぞ！」

伊「え？！じゃ、じゃあ俺はパスタとかピッツア作つていく！」

独「俺はヴルストを持つていく。」

英「じゃ、じゃあ俺は紅茶とスコーンを……（米独伊「……スコーンはやめとけ」「……なんでだよ！」）」

まあ、当たり前である。イギリスの飯は不味いだから。
アメリカのケーキも、きつと食べ物の色をしていないだろうが。

数十分後

米「じゃあいくんだぞ!」

独伊（…大丈夫なのか…?あのケーキ…）

やはり、アメリカのケーキは食べ物の色をしていなかったのだった。

日本宅

その頃、日本はと言うと…

『考えすぎのメッセージー 誰に届くかも知らないで
きつと私はいつでもそう

継ぎ接ぎ狂った マトリヨシカ』

初音 クの『マトリヨシカ』を聞いていた。

日「嗚呼…初音ミ はいいですねえ…」

パソコンに向かってまったりしていた。

今日が自分の誕生日だったことも忘れて。

すると『ピンポン』誰かが来た。

中国たち、亜細亜組だった。不法侵入の予定だったが、話し合いの
結果普通に行こうということになった。

日「ああ…中国さんですか…それに韓国さん、香港さん、台湾さん
まで。」

皆さんそろってどうしたんですか?」

中「日本、誕生日おめでとうあるー!ー!ー!」

韓「にほー！ー！ん！祝いに来てやったんだぜー！ー！」

香「日本誕生日おめでとー的な。今何歳のな。」

台「日本さん誕生日おめでとーございます！」

日「あ、そういえば今日は…

…すっかり忘れていました…

有難う御座います。皆さん。」

中「日本、さつき香港も聞いていたあるが、何歳あるか？我ももう忘れてしまったあるが…」

日「はあ、何歳でしたっけ…今はもう忘れてしまいましたね…

爺であることは確かなんですが。」

中「我なんて爺通り越して仙人言われるようになったある！お互いもう年あるな…」

日「……ははっ…」

日本は苦笑いだったが、どこか嬉しそうだった。

日「爺になっても祝ってもらえるとは…嬉しいような、恥ずかしいような…」

日本は少し照れていた。

『ピンポーン』

中「おお、やっと来たあるか！」

日「…？」

米「ハロー！いつの時代もヒーローは遅れてくるものさ！」

AKYの登場である。

英「日本！一応来てやったぞ！別にお前の為じゃないからな！」
続いて、ツンデレ眉毛も。

ツンデレ眉毛発d（英「誰がツンデレ眉毛だ！デジャヴか?!」

伊「にほーいーいん！おめでとーいーいーうー！」
ヘタリアも登場。

独「日本、誕生日おめでとつ。」

ムキムキドイツも、恥ずかしそうに言った。

いつもの彼なら、『建国記念日』と言つが、ここではあえて誕生日としておこつ。

日「…アメリカさん、イギリスさん、イタリア君、ドイツさん…ありがとうでございます。」

『ピンポーン』

また誰かきたようだった。

希「ん…日本、おめでとつ…」

猫を連れて、ギリシャだった。

土「よう日本！誕生日おめでとつ…！」

希「トルコ…うざい…死ぬ。」

土「なんだと?!」

セーシエル「日本さん、誕生日おめでとつでございます！セリフかぶってますが…！」

喫「また私は仲間外れですか?!この馬鹿馬鹿御ばk…あ、日本、おめでとつでございます。」

洪「日本さん！あまり繋がりはありませんが、おめでとつでございます…！」

西「にほーいん！誕生日おめでとつやーいー！」

ロマーノ「…ふんっ！」

続々とやってきた国々。少々多すぎたか。

日「皆さんっ！ありがとうございます！こんな沢山の方に…」

米「日本！これ、ケーキだぞ！食べるんだぞ！」

日本に出したケーキは、全体的には青くて、真中に日本列島（緑）があった。

とても食べ物と言えないが、日本はそれでも嬉しかった。ケーキを食べようとはしなかったが。

それに続いて、次々とプレゼントを渡していった。

日本は嬉しそうにひとりづつに礼をいった。

それからパーティーが始まったのだった。

数時間後

米「イギリスーーーーーッ?!」

案の定、イギリスがパブっていた。

仏「お兄さん登場ーーーーッ！日本おめでとーーーーー！」

フランスは大量の花束とワインを渡していた。

全裸で。

日「うわ…あ、ありがとうございます」

仏「今『うわ…』って言わなかった?!」

全裸がとにかく嫌な日本だった。

韓「にほーーーーん！おっぱい揉ませるんだぜーーーーっ！」

日「絶対いやですよ！嫌がらせに来たんですか！」

香港は何故か爆竹を鳴らしていた。

英「うおッ!?!」

その爆竹にイギリスがビビっていた。

英「てめー、香港！なあにしてんだ！また！」
香「すいません的な。もうしません的な。」

やはり、大騒ぎだった。

日本にはそれが楽しくて仕方がなかった。

日「（これからこんな関係でいたいですね…戦争や経済や、いろんなことも忘れて）」

戦争をしたくないと決めた日本にとって、至福の一時だったのだ
た。

e n d

(後書き)

誕生日から遅れてしまった…

今日はスペイン親分の誕生日ですね。

親分おめでとう。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8461q/>

建国記念日=日本おめでとう！

2011年10月8日18時25分発行